

ココろつなぐ

2021年 冬

町 亞聖さんコラム

「いのち」に向き合う医療を ～ みんなで“ものがたり”を紡ぐ～

もみの樹 かかりつけ医から皆さんへ

感動プロジェクト 認知症ケア

多職種のスキルを活かして、 認知症ケアを行っています。

もみの樹・渋谷本町「フロア主任座談会」

感動プロジェクト オンリーワン

一人でトイレに行けるようになりたい。

各館の取り組み もみの樹・練馬の紹介

もみの樹・渋谷本町 新しいリハビリ室(機能訓練室)ができました。



第一只見川橋梁

福島県の奥会津を縫うように流れる只見川に架かるJR只見線の橋。実に第八まである橋梁の中で全長174mの唯一のトラス構造アーチ橋。三島町特産の桐の花と同じ薄紫色に塗装されており、川の水面から立ち上る霧に包まれた橋梁は、幻想美と呼ぶにふさわしい佇まいを見せている。

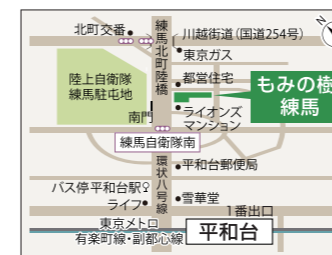
「ココろつなぐ」
人と地域、そして心豊かな暮らしへの架け橋を築く
大和ハウスライフサポート。
そこには、ご入居者やそのご家族の
さまざまな夢や願いの実現をお手伝いしたいとの
想いが込められています。

 **0120-07-4165**

受付時間: 午前9時～午後5時



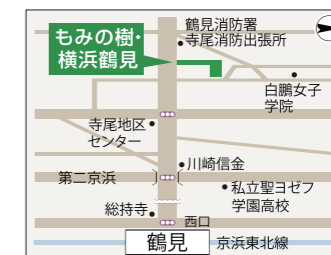
介護付有料老人ホーム
もみの樹・練馬
東京都練馬区



介護付有料老人ホーム
もみの樹・杉並
東京都杉並区



介護付有料老人ホーム
もみの樹・横浜鶴見
神奈川県横浜市鶴見区



介護付有料老人ホーム
もみの樹・渋谷本町
東京都渋谷区



大和ハウスライフサポート株式会社

東京都港区三田3丁目1番7号 三田東宝ビル6階 〒108-0073 Tel 03-3456-4165(代表) Fax 03-3456-4175

大和ハウスグループの経営のシンボルである「エンドレスハート」は、日本およびその他の国における登録商標または商標です。
© Copyright 2021 DAIWA HOUSE INDUSTRY CO., LTD. All rights reserved.

 We Build ECO | 森林育成紙TM使用



町 亞聖さん

1995年に日本テレビにアナウンサーとして入社。その後、報道キャスターとしてがん医療、医療事故、難病などの医療問題や介護問題などを取材。2011年にフリーに転身。脳障がい母と過ごした10年の日々、そして母と父をがんで亡くした経験をまとめた著書「十年介護」を小学館文庫から出版。医療と介護を生涯のテーマに取材、啓発活動を続ける。

町 亞聖公式ブログ「As I am」 <http://ameblo.jp/machi-asei/>
出演番組
☆ラジオ日本 毎週木・金曜日あさ6時30分～8時50分まで生放送「スマートNEWS」
☆ニッポン放送 毎週日曜日あさ6時25分～6時54分
ウィークエンドケアタイム「ひだまりハウス～うつ病・認知症を語ろう～」
☆文化放送 毎週土曜日あさ5時35分～5時50分
スポーツを応援する「みんなにエール」

column Vol.10 町 亞聖さん

介護の経験を基にした「伝えたい」を
ころつなぐで連載いたします。

「いのち」に向き合う医療を ～みんなで～ものがたり～を紡ぐ～

「『死』を正面から見据えた生の医療が看取りの医療。病を治すことを目的とせず人生の最期の時を悔いなく生き抜くことを、支え見守る医療」があってもいい。終末期で大切なのは一人の人間が歩んできた人生、つまりものがたられる『いのち』に向き合うこと」
支え見守る医療を提唱してきたのは富山県砺波市で在宅医療に取り組む佐藤伸彦先生です。最先端の医療で生命体の「命」を救っても患者の心を救えない時があることを知った佐藤先生が辿り着い

た医療の形で、10年前に病院でも施設でもない「ものがたりの街」を開設。ここで暮らすのは医療的ケアが必要なのに他の病院や施設から受け入れを拒否されたがんなど終末期の患者さんです。訪問診療や訪問看護を受けながら家族と一緒に我が家にいるのと同じ状況で過ごせる、第三の場所“です。
ものがたりの街では患者さんのことをもっと知りたいと看護師さん達が家族と一緒に「ナラティブアルバム」を作ります。このナラティブアルバムには患者さんが生

まれた頃、仕事をやる様子、奥様との出会いなど一人の人として生きた“人生”が紡がれていて、ものがたりを共有してきた家族だからこそできることがあると気づかされました。終末期では尊厳という言葉がよく使われますが、最期の時を見守る全ての人によって、ものがたりが語り継がれてこそ尊厳という言葉に血が通うのです。
そんな佐藤先生が長年の夢だった「ものがたりの街」を今年秋にオープン。人生の最期を住み慣れた地域で安心して暮らすことを目指す「ものがたりの街」には診療所、訪問看護ステーション、住宅、薬局、カフェ、古民家で使われていた蔵を再利用した図書室、菜園などもあり、地域住民も気軽に集えるようになっていきます。
「みんなで一緒に育てていく」がコンセプトでまだ完成形ではなく、ここで暮らす人達が自分達の手で夢や希望を形にしていくことで「街」のものがたりが創られていきます。このコンセプトはみなさんが暮らすホームでも実践できると思っています。ぜひご家族とスタッフとものがたりを紡いでみませんか。



ものがたりの街の佐藤先生と

☆「ものがたりの街」→ <https://www.monogatarinomachi.jp/>

もみの樹 かかりつけ医から皆さんへ



医療法人財団圭友会 小原病院
副院長・在宅診療部長
服部 雅俊

もみの樹と協力体制を築いて、充実した医療をご提供。

小原病院は中野区に位置する医療療養型病院です。1955年設立の歴史ある病院ですが、訪問診療を開始したのは2014年からです。高齢者の半数以上が「自宅や施設で療養したい、最期まで過ごしたい」と希望する一方で、実際には介護困難などを理由に入院となる場合も多々あります。ひとつの病院でその両方に対応することで、大きな安心を提供することが可能になりました。

もみの樹・杉並のご入居者の診療を担当することになったきっかけは、偶然的な出来事からでした。当院入院中の方が余命わずかととなり、最期は自宅近くの施設で過ごしたいと希望されました。その施設がもみの樹・杉並で、当院在宅診療部が引き続き主治医として診させて頂くことになった訳です。そのとき施設スタッフの一員であった長野さんがその後館長に就任され、他のご入居者

のご紹介も頂くようになりました。当院の理念である“人の気持ちを汲む医療”と、もみの樹・杉並における“安心のための充実したメディカル”とが、見事に一致した結果だと考えております。

もみの樹・杉並は老人ホームでありながら、医療面の充実度は病院に匹敵するレベルです。胃ろうや尿道カテーテルはもはや当たり前前で、気管カニューレ、中心静脈栄養、末期がんの緩和ケアなど、他の施設では困難な状態の方も積極的に受け入れておられます。またスタッフの方々もこれらの医療処置に前向きに取り組まれ、かかりつけ医としても安心して任せられる体制です。

施設スタッフと主治医の信頼関係が、ご入居者のご家族の安心や安全に繋がると確信しております。これからも“人の気持ちを汲む医療”を実践し、“安心のための充実したメディカル”を提供して参ります。



看護師・高橋さん 大石先生 服部先生

はっとり まさとし 服部 雅俊

医療法人財団圭友会 小原病院 副院長・在宅診療部長

1992年に東京医科大学卒業し、同年4月東京医科大学病院 臨床病理学講座入局。
1993年1月救命救急部へ異動。
1993年4月同愛記念病院 内科研修医。
1994年4月東京医科大学 臨床病理学講座臨床研究医。
1997年10月東京医科大学霞ヶ浦病院 中央検査科 助手。
1998年4月東京医科大学霞ヶ浦病院 感染症科 助手。
2000年4月齋藤記念病院 内科。
2009年4月齋藤記念病院 内科部長。
2014年4月小原病院 副院長(診療部長兼任)、2016年4月在宅診療部長兼任。
この他、日本在宅医学会および日本緩和医療学会の会員として活動。

感動

プロジェクト

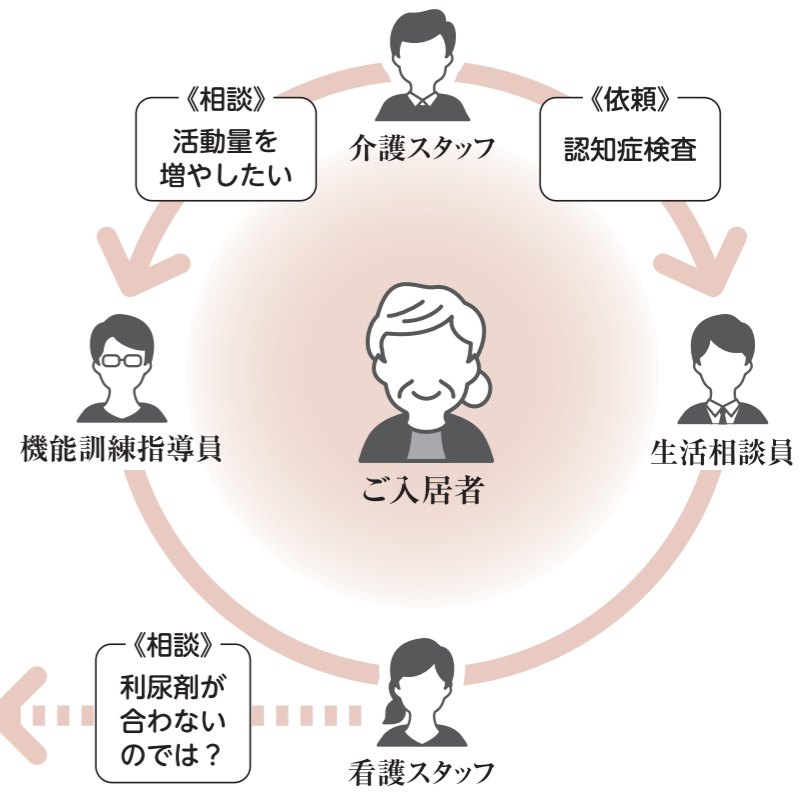
認知症ケア

多職種のスキルを活かして、 認知症ケアを行っています。

K様（80代後半） 要介護4

当社では毎年、サービス品質の向上をめざし、館ごとに事例研究を行っております。さらに、これらの成果をより多くの皆様に知っていただけるよう、今年是一般社団法人認知症ケア学会での発表を予定しております。

今回は排尿回数を検証し原因の仮説に對して、昼間の活動量を増やしたり、内服薬の見直しを行ったり、多職種が連携しアプローチすることで排尿回数が減少したという、もみの樹・杉並が「事例総括会」にて発表した事例についてご紹介いたします。



仮説検証の取り組み①

良質な睡眠を目指し、 運動量や内服薬を調整。

- ① 日中の排泄回数が少ないので、
 - ② 内服中の利尿剤が合っていないのでは？
- という2つの仮説を立て、検証することになりました。

仮説に基づいた取り組み

- ① 活動量をUP！
- ② 介護スタッフ ↓ 機能訓練指導員 (PT) に相談

FIMという動作能力を数値化する評価法でK様を評価。階段昇降が可能なレベルと判明したため、生活リハビリとして介護スタッフと一緒に階段昇降を開始しました。K様自身「もつといけそう」と意欲が芽生え、40日ほどで機能的自立度評価法の運動項目や認知項目に改善が見られました。

「機能的自立度評価法」の検査項目と結果

2019/12/5	56点
2020/1/16	56点

「簡易認知機能スクリーニング検査」の結果推移

2019/11/15	2020/1/20	2020/3/5
15点	17点	19点

②内服薬を見直し！

▼看護スタッフ ↓ 医師 (主治医) へ相談
利尿剤が合っていないかも…と主治医に相談し、内服薬を見直し変更。副交感神経の高まりを期待して、就寝前には定期的な足浴を行い、就寝時刻も調整しました。

仮説検証の取り組み②

コミュニケーションを促し、 就寝時間を変更。

- ③ 会話で中核症状が緩和し、夜間頻尿の改善に結びつくのでは？
 - ④ 就寝する時間が早すぎて、夜間頻尿に繋がっているのでは？
- という仮説を立てました。

仮説に基づいた取り組み

- ③ コミュニケーションの機会をUP！
- ④ 介護スタッフ ↓ カンファレンスを実施

「時間を決めて会話をしてみよう」ということになり、お茶やおやつの時間に好きな飲み物を選んでいただくことに。今まで以上に会話をしたことで、以前は「コーヒー、ブラック」と単語だけでしたが、「甘いココアがいいな」と、いつも控えめなK様でも自然と発語機会が増えるようになりました。



④就寝時間を見直し！

- ▼介護スタッフ ↓ データを収集
- 普段は20時前に就寝介助を行いベッドに入っていました。22時頃に変更。就寝直前に足浴を行うようにすると、K様はリラックスされている様子で、「気持ちいい」などの言葉を発するようになりました。

結果

夜間排泄回数は改善。 表情の変化や発語は増加。

下肢筋力が鍛えられ、認知症についても『場所の見当識』『書字指示』といった項目が若干ですが改善し、会話の中でも、毎回反応が増え、表情に変化が現れるようになりました。排泄回数は就寝時間を遅らせたことや足浴の実施により一定の効果が見られました。



スタッフボイス



徘徊などの症状がある方に目がいきがちですが、あえて自発的言動が見られないK様にスポットをあて、みんなで関わるようにしたところ、新たな能力の発見ができました。多職種連携の重要性も改めて実感できたので、今後も情報を共有しながらK様をサポートしていきたいです。
もみの樹・杉並 稲垣 重美

もみの樹・渋谷本町「フロア主任座談会」

リハビリやアクティビティを充実させて、 介護予防にも役立てたい！

ご入居者を生活面からケアする介護スタッフと
医療面からケアする看護スタッフの3名に、
新しい取り組みや課題、今後の意気込みについて伺いました。

新しいリハビリ室ができたそうですが、
どのように活用されるのでしょうか？

【遠藤】 今後、自立度が高いご入居者も増えて
いくと思うので、リハビリ室を整え、より早い段階
から介護予防に取り組めればと考えています。

【古川】 マシーンや平行棒はありましたが、専用
スペースがなかったので、介護予防の意識が高いご
入居者にも対応できるようになったと思います。

【遠藤】 最近のリハビリ意欲の高い方が多く、運
動機能を保ちながら介護を必要とされる方も

増えています。ジムのようなマシーンも揃えていま
すので、高い目標をお持ちの方でもご満足いただ
けるはずですよ。

【佐々木】 ご入居者
同士のコミュニケーション
の場にもなりそうで
すね。楽しくリハビリ
を行い、少しでも成果
をご実感いただける
と、私たちも嬉しいで
すよ。



リハビリ室(10月新設)



介護主任
遠藤 勇気

看護副主任
佐々木 力

介護主任
古川 弘一

今は外出や来館者との接触への
配慮が必要ですが、
アクティビティなどは
どうされていますか？

【古川】 コロナ禍でも充実した生活を提供でき
るよう試行錯誤しています。自粛中でも楽しい
時間があれば生活にハリが出ますよね。今は映
画鑑賞会やオンライン音楽会などを開き、感染
対策と娯楽の両立を図っています。

【遠藤】 生活リハビリや五感に働きかける音楽
リハビリなど、医療依存度の高い方も参加しやす
いアクティビティの充実も課題ですね。ご入居者
とコミュニケーションを深め、個性の高いメニュー
を検討しているところです。

【佐々木】 「野球観戦に行きたい」というご入居
者の夢を叶えるプロジェクトで、栄養面から体調
管理を担当したことがあります。球場から帰館
された際の笑顔が印象的だったので、これからも
看護スタッフとしてサポートしながら、夢の実現
を応援したいですね。

毎年恒例のもみの樹まつり、
今年はどうされましたか？

【古川】 今年は規模を縮小し、ご家族はご参加
いただけませんでしたが、フランスをテーマに行い



2020年もみの樹まつりでのお食事

ました。トリコロールカラーの花やテーブルセットイ
ングで、フレンチレストランの雰囲気を出し、優
雅な気分でフルコースをご堪能いただきました。ハ
ワイがテーマの昨年は、南国風の会場でフラダンス
を見て、料理を召し上がっていただきました。医
師に確認してお酒を提供し、各々ご家族と楽し
まれていたので早く元通りになってほしいですね。
【佐々木】 そうですね。昨年は模擬店を回ったり
ゲームをして盛り上がっていましたね。おいしい屋
台料理も大好評でした！

【遠藤】 お祭りも旅行や外出を伴うプロジェク
トも、非日常感があって大変喜ばれるんです。コロ
ナ禍で制限はありますが、今後も非日常の楽し
みをお届けしたいです。

【全員】 ご入居者とご家族が触れ合えるように
なってほしいですね。心を満たすことも介護予防
につながると思うので、今はご家族の分も寄り
添っていきます！

看護

看護副主任

佐々木 力



ご入居者とご家族、お一人
おひとりの思いや歴史を踏
まえたうえで、健康管理が
できることは、館における看
護の魅力です。ドクターと
連携して、ご入居者の個別
性を尊重しながら、質の高
い看護をご提供できるよう
努めています。

3・4F

介護主任

古川 弘一



10年以上就いている大好
きな仕事なので、ご入居者
とスタッフが快適に過ごせる
環境を守り、ずっと続けてい
きたいです。介護主任とし
ては、個々の長所を伸ばし、
自分で考える介護ができる
スタッフの育成を目指してい
ます。

1・2F

介護主任

遠藤 勇気



非日常的な刺激やアク
ティブな活動はとても大切
です。一方で、揺るぎない日
常があつてこそ、その価値が
高まると思っています。です
から、ご入居者の趣味や好
き嫌いをしっかり把握して、
毎日のケアに役立てていき
たいです。

感動

プロジェクト

オンリーワン

プロフィール Y様(90歳) 要介護4

感動プロジェクト「オンリーワン」とは

いくつになっても自分らしく生きることを大切にしたい、という願いから企画されました。ご入居者が人生でやり残したことや、諦めてしまっていることのお手伝いをさせていただき、その人らしさを取り戻す機会を提供しています。ご入居者が夢を実現した達成感、達成に至るまでの目標を持った充実した生活を送っていただけのプロジェクトです。

一人でトイレに行けるようになりたい。

介護される立場に立つて、夢の実現をお手伝い。

Y様はもみの樹・横浜鶴見にご入居いただく以前より、自立した生活が難しく、入院先では起き上がりに三人介助を要していました。ご入居いただいた当初も終日ベッド上で過ごされ二人介助。排泄介助の際は「悪いわね」と申し訳なさそうに仰り、周りのスタッフを気づかわれていました。

排泄介助はデリケートなケアなので、自尊心が傷ついたり、羞恥心に苛まれる方もいらっしゃいます。もともとY様は教師をされていて社交的で行動的。本来



車椅子に乗りながらリハビリスタート。

『POPPO』を利用したりハビリを週に1〜2回取り入れることにしました。初めは表情も硬く、恐る恐る『POPPO』に触れていたY様でしたが、次第に操作にも慣れ、歩行する姿にも余裕が生まれ、熱心にリハビリを続けられました。

リハビリ開始時は7〜8mの歩行が精一杯でしたが、3カ月間で30mの歩行を3回できるほど上達。少しずつADL(日常生活動作)も向上し、4カ月後にはトイレの練習をしたり、『POPPO』での散歩も楽しめるようになりました。

■免荷式リフト『POPPO(ポポ)』

リフト機能で身体を吊り上げ、安全な立ち座りをサポート。免荷機能で下肢にかかる体重の負荷を軽減。転倒するリスクも軽減され、安心して、意欲的に歩行訓練に取り組みことができます。



軽介助で排泄が可能になり、自信回復の兆しも。

目標を持ってリハビリを重ねたことで、排泄と移乗は一人介助で、臥位から長座位までの体位変換は介助な

リハビリ用ロボットを使って、安心の歩行訓練。

の前向きな性格を呼び起こし、リハビリのきっかけになればと考え「何かやりたいことはありませんか？」とお声掛けすると、「一人でトイレに行けるようになりたいわ」とひと言。そこで、本来のY様らしくイキイキとお過ごしいただけるよう、「一人でトイレに行く」ことを目標にプロジェクトをスタートしました。

Y様の身体機能を考慮して、体をしっかりホールドして安全に歩行訓練を行えるリハビリ用ロボットの



立ち上がって歩けるようになり、笑顔を見せるY様。

しで行えるようになりました。そして、日中の排泄はすべてトイレで済ませられるようになり、夜間もオムツではなくリハビリパンツに変更。「トイレに行けるようになって嬉しい」「足の痛みも軽くなり、立ち上がるのも楽」と大変喜ばれ、その表情には自信が含まれているようでした。

また、以前はできなかった体操に参加したり、天気の良い日はベランダで散歩をしたり、行動範囲が拡大。今後は趣味の書道や俳句の展示会に出かけたいと、夢を膨らませていらっしゃいます。

スタッフボイス

Y様はリハビリの頻度によっては、膝に痛みが出ることもあるので、毎回足の状態を確認し、無理のない範囲で訓練できるように細心の注意を払いサポートしました。



もみの樹・横浜鶴見 長谷川 一美

引き続き、Y様の尊厳を守りながら介助を行い、次の夢を叶えるお手伝いをしたいと思います。



もみの樹・練馬の紹介

私たちは常に認知症の方の尊厳を守り「その人らしい生活」の実現を追求しています。
 たとえば、昔を思い出し活動性・自発性・集中力を高める「回想療法」、パズルやクイズで脳を活性化させる「脳トレ」など、薬だけに頼らないケアを積極的に取り入れています。
 「回想療法室」には、高齢の方にとって懐かしい人形やカメラ、置物などを飾っています。昔話に花が咲き、穏やかな時間が流れるお部屋です。
 「脳トレ室」では、往年の俳優さんの写真に心躍らせたり、早口言葉やクイズに挑戦したり、皆様、笑みを浮かべながら楽しまれています。
 今後も専門性を活かし、思いやりを持って寄り添い、その方に合ったケアをご提供いたします。そして、一人でも多くの認知症高齢者の方に安心してお過ごしいただける館を目指してまいります。

認知症ケアの取り組みについてご紹介した動画を公開しています。
 ぜひご覧ください。

スマートフォンやタブレットにて、
 動画をご覧いただけます。

※二次元コードを読み取り
 アクセスしてください。



「もみの樹・練馬」ホーム紹介
 ～認知症フロア編～



認知症フロア主任ご挨拶



認知症フロア
 D'sケアマスターご挨拶



もみの樹・渋谷本町 新しいリハビリ室（機能訓練室）ができました。 スペースを拡大して、より充実したりハビリを。

もみの樹・渋谷本町は、より質の高いリハビリテーションをご提供するために、館内の一部を改装し、新たにリハビリ室（機能訓練室）を設けました。

理学療法士や言語聴覚士がお一人おひとりに適したリハビリ計画を立て、丁寧に指導いたします。もちろん、自主的に運動をされたい方のご利用も可能です。集中できる専用スペースで、身体機能の維持・向上をしっかりサポートしていきます。



専門スタッフが寄り添いご指導。

リハビリ機器のご紹介

目的や体調に合わせて負荷を調整できるリハビリ機器を揃えています。最適な負荷を与えることにより、無理のないトレーニングを実現。小さな「できたー」を繰り返しながら、意欲的にリハビリを行っています。

レッグプレス



立ち上がりをスムーズにするもの前側から足全体を鍛えます。

アブドメンバック



主に色々な動きの基礎となる腹筋と背筋を鍛えます。

アダクション アブダクション



体幹力やバランス力に必要なもの内側と外側を鍛えます。



ゆったりとした空間に様々な機器をご用意。

～ Webアンケートご協力のお願い ～

日頃より「こころつなぐ」をお読みいただきありがとうございます。皆様からお寄せいただくご意見・ご感想は真摯に受け止め、各館運営の参考にさせていただいております。

この度は、今後の更なるサービス向上を目指し、Webアンケートを実施することとなりました。つきましては、下記のURLまたは二次元コードからアクセスのうえ、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

なお、アンケートにお答えいただいた方には、「携帯用消毒ジェル」を進呈いたします。

お客様の個人情報およびご意見は、弊社の個人情報保護方針に従って取扱い、サービスの向上とイベント等のご案内メール以外には使用いたしませんので、ご安心ください。

今後ともご支援・ご愛顧のほど、よろしくお願い申し上げます。

【アンケート受付期限：2021年3月31日(水)】
<https://www.dhls.jp/survey/>



速乾性アルコールジェル
 内容：60ml
 (クロルヘキシジングルコン酸塩、エタノール)